



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2003年3月
第12号

危機管理システム研究学会第3回年次大会開催にあたって

第3回年次大会実行委員長
太田 三郎（千葉商科大学）

危機管理システム研究学会第3回年次大会を平成15年5月24日（土）、千葉商科大学で開催させていただくことになりました。本学は東京駅から快速で20分ほどのJR市川駅から徒歩で18分、または京成バス「松戸行き」で10分ほどの高台、文教地区にあります。学会員の皆様には、万障お繰り合わせの上、多数のご参加をお願い申し上げます。

今大会は、統一テーマ「21世紀の危機管理 in 千葉商大」を掲げて「企業不祥事と危機管理」に関するパネルディスカッションと6件の研究発表によって21世紀の危機管理を多角的な側面から追究致します。21世紀にふさわしいアグレッシブな危機管理システムの構築を目指す大会になるものと確信しております。

今日、デフレの長期化は、わが国企業に大きな脅威と危機感を与えています。政府は、その対策の一環として、産業再生機構や金融再生プログラムなど、一連の諸施策を打ち出し、デフレ不況の克服を目指しています。周知のとおり、産業再生機構は、経営不振に陥った企業の再生可能性を判断して、企業再生の支援を目的に創設され、金融再生プログラムは、主要行の不良債権問題を通じた経済再生を目的としたもので、2004年には、主要行の不良債権比率を現状の半分程度に減じ、より強固な金融システムの構築を目指しています。しかし、現状は、未だ多くの企業が長期にわたる不況によって疲弊し、加えて種々のリスクに直面しています。

およそ社会科学の研究成果は、社会に還元されてこそ意義を持ちます。それは実効性を伴うことが必要です。本学会の危機管理研究の成果は、混迷した経済とリスク多難のこの時期に、ますます社会的意義を持つものと確信しています。第3回年次大会が成功しますように、会員の皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

目	次
第3回年次大会開催にあたって.....1	分科会報告.....3
第3回年次大会プログラム..... 2	事務局からのお知らせ.....6

危機管理システム研究学会第3回年次大会プログラム

開催場所 : 千葉商科大学 図書館5階 会議室

期 日 : 2003年5月24日(土) 受付開始 9:30

統一テーマ: 「21世紀の危機管理 in 千葉商大」

10:00~10:30 会員総会 全体進行司会: 村上處直(防災都市計画研究所)

【10:35~16:50 研究発表報告・パネルディスカッション】

【10:35~12:00 研究発表・報告(セッション1)】 座長:

10:35~10:45 危機管理教育実践分科会活動報告: 後藤 和廣(同分科会主査)

第1報告 10:45~11:15(報告20分、質疑応答10分)

テーマ: リスクマネジメントシステムと個人・組織のコンピテンシー

報告者: 坂 清次((株)三菱総合研究所)

第2報告 11:15~11:45(報告20分、質疑応答10分)

テーマ: 「大企業の不祥事と再発防止策の検討」

報告者: 島田 公一(あいおい損害保険株式会社)

第3報告 11:45~12:15(報告20分、質疑応答10分)

テーマ: 危機管理へのシステム工学的なアプローチ(その3)

- システムモデルと外部性についての考察 -

報告者: 萬金 修一((有)あけぼの)

12:15~13:00 休憩・昼食

【13:00~17:30 研究発表・報告(セッション2)】 座長: 長濱 昭夫(桜美林大学)

第4報告 13:00~13:30(報告20分、質疑応答10分)

テーマ: 巨大災害リスクマネジメントと企業経営

- 阪神・淡路大震災における「コープこうべ」の事例を中心として -

報告者: 仲間 妙子(千葉商科大学大学院)

第5報告 13:30~14:00(報告20分、質疑応答10分)

テーマ: 公共ITのアウトソーシングによる電子自治体の推進を可能にするための“公共ITリスクマネジメント”とは

報告者: 佐藤 徳之(マーシュ・アンド・マクレナン・カンパニーズ)

石井 裕子(マーシュ・ブローカー・ジャパン(株))

第6報告 14:00~14:30(報告20分、質疑応答10分)

テーマ: 東京電力原発トラブル隠蔽事案で示された今後の企業運営上の課題

報告者: 樋口 晴彦(警察庁 刑事局調査官)

14:30~15:00 分科会活動報告

リスクマネジメント・システム研究分科会 : 指田 朝久(同分科会主査)

リスク事例サロン分科会活動報告 : 島田 公一(同分科会主査)

リスク情報交流分科会活動報告 : 鈴木 敏正(同分科会主査)

15:00～15:10 休憩

【15:10～17:20パネルディスカッション】

テーマ：『企業不祥事と危機管理』

コーディネーター：島田 公一（あいおい損害保険(株)）

パネリスト：上野 治男（松下電器産業(株)）
土肥 孝治（土肥法律事務所）
原 正輝（東洋経済新報社）
中村 洋子（JAPIC・元厚生省企画官）
齋藤 淳（齋藤会計事務所）

17:30～19:00 懇親会

司会：河路 武志（成蹊大学）

分 科 会 報 告

【危機管理教育実践分科会】

主査：常任理事 後藤 和廣（MSK基礎研究所）

<活動報告>

(1)ARM 受講者の募集活動

当学会が推奨している ARM 受講者の募集が本格化した。当学会は、保険毎日新聞、インシュアランス、インスウォッチ（メール・マガジン）等を紹介し広報活動の支援を行い、2月には外国保険会社協会等にも案内し協力を要請した。

前述の新聞等で ARM の内容が紹介され、詳細な内容を知りたいとの照会も増加している。照会者は損害保険代理店が多いとのこと。募集は3月20日まで続け、5月15日に開講される予定。ただし20名の受講者が集まらなるとキャンセルされる。

ARM は Associate of Risk Management の略で、アメリカで広く認められている資格である。試験を受けこの資格に合格すると、保険業界や企業で、リスク・マネジメントのプロフェッショナルであることが認知される。

講義はインターネット通じ英語で行われる。

(2)横浜市立大学医学部の総合講義への協力

横浜市立大学医学部より、当学会常務理事の辻さんに、同学部が主催する総合講義に今年も講演して欲しい旨依頼があった。本件に関しては、昨年に引き続き辻さんをお願いすることにした。

総合講義は、社会人を講師に招き、大学の授業のみでは得難い実社会の動向等を学生に教える趣旨で設けられた講義である。3年前同大学から協力依頼があり、当学会が講師を推薦するなど協力している。

【リスクマネジメント・システム研究分科会】

主査：常任理事 指田 朝久（東京海上リスクコンサルティング(株)）

1．開催日時、場所：2003年1月22日水曜日18時00分～20時30分、於 新東京法律事務所会議室

2．出席者(11名)：土屋、北沢、長井、横井、綾部、坂、森、野村、藪、吉川、指田（順不同）

<第18回活動報告> 前回までに原則3, 4, 5, 6につき議論が終了し、昨年度の原則1, 2と合わせて継続的改善のスパイラルアップにある部分が一通り終了したので、大会にむけてここまでの成果をまとめていくこととしました。今までの議論の議事録を元に各自から募集したコメントをベースに各自分担をきめ意見集約を行うこととしました。議論に参加していた人には分かる表記であっても、初めて文章を見る人にと

っては意味が不明な議事録やコメントの文章があることが分かり、その修正も含めて次回までに分担した項目を整理することとなりました。新オフィスのお祝いの花束にあふれる中報告書作成にむけ元気がわいてきた一時でした。

< 第 19 回活動報告 >

1. 開催日時、場所：2003年2月18日（火）、18時30分～21時まで、於 日新火災保険本店会議室
2. 出席者(13名)：土屋、北沢、長井、横井、綾部、金井、坂、森、野村、藪、吉川、村上、指田（順不同）
今回から2回にわたり、大会にむけた活動報告書のレビューを行いました。これらの中で、組織のリスクマネジメントをまず行うことが大切だが、その中で組織の外の関係者との協力関係の構築という点が抜け落ちている事例が多いとの指摘がされました。アメリカの FEMA も技術者リストを持っていて災害時にはその組織外の専門家を活用する。このように今や災害や危機に際しては組織以外の要員をいかに動員出来るかが重要だとの指摘がありました。

また、JISQ2001の難関であるパフォーマンス評価とシステムの有効性評価について議論が交わされました。パフォーマンス評価はISO9000やISO14001でも避けてきたところで、それをJISQ2001はチャレンジしたものであり、その点は高く評価出来るとの意見がありました。また、個々のパフォーマンスが十分でもシステムの有効性がない例として、消防法があげられました。消防法は設備法で、個々の製品はパフォーマンス100%でも全体としての仕組みを評価する制度が無いいため、いくら製品が良くても全体の防災は良くない事例があるとの指摘がありました。

< 第 20 回活動報告 >

1. 開催日時、場所：2003年3月6日（木）、18時00分～21時、於 新東京法律事務所会議室
2. 出席者(15名)：土屋、北沢、長井、横井、綾部、小島、坂、森、野村、藪、吉川、村上、山口、福田、指田（順不同）

前回から2回にわたり、大会にむけた活動報告書のレビューを行いました。今回は原則4, 5, 6を確認しました。JISQ2001の難関であるパフォーマンス評価とシステムの有効性評価についても整理を行い大会用の報告書の原案が固まりました。今回も議論を進める中で韓国の地下鉄火災のリスク分析のチェックポイントとして有毒ガスの発生の問題や列車通行と空気の供給の問題など、また新幹線の居眠り運転に対して自動列車制御装置がいかに有効に働いたかという議論と運転士の健康管理の問題との関連についてなど、最新の話が交わされました。規格についても点検是正については法律改正によりリスクのレベルが変化するという話題について、また内部告発も法律だけでは問題が解決しない。法律を使わなくても問題が解決できる風土をいかに企業内につくるかが大切などいろいろな議論がされました。議論の後の懇親会には懐かしい顔も参加され、楽しいひとときを過ごすことになりました。

次回は5月7日水曜日に新東京法律事務所で行います。

【リスク事例サロン分科会】

主査：常任理事 島田 公一（あいおい損害保険(株)）

< 第 4 回 開催報告 >

危機管理・リスクマネジメントに関する会員間の情報交流の場として、今年度より発足いたしました第4分科会「リスク事例サロン分科会」（第4回）が開催されました。本分科会は、開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。前回に引き続き多数の方に参加いただき、活発に意見が交わされました。

1. 開催日時・場所

2003年1月15日（水）午後6：30～8：30、於 東洋経済新報社 9階会議室

2. 参加者（22名）

五十嵐、太田、岡崎、北澤（一）、幸山、坂本、島田、須藤、辻、出崎、長井、仲間、能崎、原、廣田、松本、眞子、宮崎、村上、藪、横井、吉川 50音順

3. テーマ：「後を絶たない企業不祥事と日本経団連「企業行動憲章」

4. 分科会の内容

テーマに関して報告者・原 正輝氏（東洋経済新報社）から事実関係の報告・資料説明後、飲食しながら

参加者による自由発言・情報交流が行われました。主な発言は次の通りです。

【不祥事の基準】

- ・不祥事故の基準は難しいが、内部基準ではなく世の中の基準である。「世の中に対するマイナス情報」と考え、世間の常識（外部がどう見るか）が重要。
- ・不祥事故の基準を「違法行為」と「不正行為」に分け、これをレベルの深刻度によって分けるという考えも有る。
- ・企業の不祥事に対するこれまでの責任追求は寛容だったが、今は違う。問題あった場合の信用リスク回復に時間がかかるし、信用され顧客に支持されることが存在の許される企業の条件である。
- ・基準の現場への徹底は概念論より具体的でわかりやすく示す必要あり。混乱を招かないためにチェック基準をアップトゥデートしていくことが必要。
- ・2004年度から有価証券報告書に「経営者の認識するリスクを表示する」とされている。このようなディスクロージャーにより状況が変わってきた。経営者のRM意識育てられていく動機づけとなる。

【企業不祥事に関するマスコミ報道やそのあり方】

- ・報道で表に出たものがすべてではない。この他にも隠されたものや不祥事があるのではないか。
- ・マスコミの誤報によりダメージを被った企業もある。この場合、訴訟しか対応する方法はなく、原状回復は難しいのが実態。合理的な解決枠組みが検討されるべきである。
- ・誤報の原因は取材者の個人的能力もある。取材方法として公開留保条件も明確にした上で行うことが必要。また、他の原因として特報落ちに対する恐れ、圧力団体や広告主への遠慮、記者クラブ制度等の限界等指摘されるが、このようなことは個別にはあり得ても、全体としては問題ない。それなりにバランス取れている。
- ・マスコミにも不祥事があり、これへの対応がマスコミが一番だめといわれる。倫理綱領が守られていないのではないか。新聞社にもコーポレートガバナンスができていない。
- ・マスコミの報道に一部問題があったとしても、従来隠されていたことが表面化したことにつき果たした役割は大きい。両刃の剣としての特性も有り、バランス取るのは難しいがそれなりにやっている。

【不祥事を予防する仕組み・組織】

- ・当社ではコンプライアンス部を設置した。現場チェック基準、守るべき法律等を整理したところかなり厚いマニュアルになってしまった。法律の条文だけで示すのは難しい。
- ・企業を性善説で対応するのは難しく、違反に対するペナルティーが必要。Y乳業のケースは深刻度から考えると、社会が下したペナルティーはやむを得ないともいえる。なお、また外資系企業は「性悪説」を念頭においたルールを定め対応している。
- ・飲酒運転に対する罰則強化により交通事故が減少する等、企業も人も「行為が割に合うのか」計算しているので、不誠実が割に合わない仕組み（罰則の強化）が有効だ。
- ・一方、計算できない人も存在するのでこれへの対応も必要。米国の「死の教育」（罰則の強化とそれの救済制度）ノウハウ「マッド」の運動は参考になる。
- ・事例報告された、Y乳業、M物産、T電力の3事例とも、社長すら知らない聖域があり、内部監査を強化してもアンタチャブルな領域があってはならない。
- ・一部組織が独走してしまっている。社員個人の人間性だけでなく、聖域を作らない、自浄機能をビルトインするなど「組織」面から考える必要がある。
- ・社内組織としては、 検査・監査の組織 コンプライアンス組織 監査役（含む社外） 社外取締役、等あるがこれらがそれぞれ適切に機能することが必須。また業務遂行上の機能分担として「相互牽制」する仕組みも必要である。
- ・当社ではコンプライアンスハンドブックを作成し、トップの責任も明確化した。株主代表訴訟もありトップも不祥事に対しナーバスになっている。
- ・コーポレートガバナンスに、「内部告発」は重要な役割を果たす。
- ・自由化が進み競争原理が一層厳しくなっている中、誤った「村社会意識」に陥らないためには、組織トップの意識は極めて重要であり、問題発生した場合経営責任は免れない。

5. 次回スケジュール

第5回は3月12日（水）、午後6：30～8：30、開催場所：東洋経済新報社 9階会議室、（東京都中央

区日本橋本石町 1-2-1)、テーマ:「報道機関のコンプライアンス 誤報・過剰取材を正す仕組み」企業不祥事は相次ぐが、一方で行き過ぎたマスコミの誤報・過剰取材から企業は壊滅的な致命傷を負うケースもあります。英国の記事不服審査委員会の例も紹介いただきながら、報道機関のコンプライアンスについてディスカッションします。報告者:宮崎 貞至 氏 (帝京大学)

第6回は5月14日(水)を予定しています(原則奇数月の第2水曜日です)。開催日の1ヶ月前にテーマ、報告者、申込要領等をホームページおよび電子メールでご案内しますので、その時にご案内する要領にしたがってお申し込みください。(会場の都合で定員25名先着順となります)

メールアドレス登録・変更通知のお願い

本分科会は開催の都度当学会のホームページおよび電子メールでご案内しますので、メールアドレス未登録の方または登録済メールアドレスに変更がある方は学会事務局までご連絡ください。

<広報・編集委員会だより・編集後記>

ARIMASS Letter 第12号をお届けします。今回は5月24日に開催される第3回年次大会のプログラム関連の特集です。当日の報告者はそろそろ発表原稿を作成に取りかかられていることと思います。また「企業不祥事と危機管理」をテーマとするパネルディスカッションについても高い関心が寄せられています。一方、世の中は低迷している経済状況とあいまって、米国に芽生えている極右主義の台頭、湾岸に派遣された空母の写真や北朝鮮のミサイル発射の報道を見るたび、なんとなく不安が大きくなっていくのは小生だけでしょうか?(田端 進)

<事務局からのお知らせ>

1.分科会連絡先

第1分科会(教育実践):主査:後藤和廣、.03-3291-8921 / Fax.3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com

第2分科会(RMS):主査:指田朝久、.03-5288-6581(直) / Fax. 03-5288-6590

e-mail:TOMOHISA.SASHIDA@tokiomarine.co.jp

第3分科会(情報交流):主査:鈴木敏正、.03-3288-4255 / Fax.3288-4691

e-mail:suzumasa@mvp.biglobe.ne.jp

第4分科会(第4分科会:リスク事例サロン分科会)

:主査:島田公一、.03-5789-7224 / Fax.03-5789-6680

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

2.新入会員紹介

氏名	所属機関・職名
眞崎 達二郎	銀泉保険コンサルティング(株)
山見 博康	(株)KCプロモーション
岡崎 真理子	ヤンセンファーマ(株)
樋口 晴彦	警察庁
まなこ 眞子 智弘	明治製菓(株)

3.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-19-403

.045-453-0003 FAX. 045-442-0235

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/

2003年3月22日発行

印刷 株式会社 櫻 栄 .03-3288-5571